

平成 28 年度まちづくり懇談会会議録【内田地区】

日 時 平成 28 年 10 月 27 日（木） 19：00～20：30
会 場 内田地区センター
参加者 56 人

※「第 2 次菊川市総合計画について～第 1 次菊川市総合計画の振り返りと今後 9 年間の計画～」と題した説明のあと、参加者の皆さまとの懇談（質疑応答）に入りました。

※会場からのご意見・ご質問

●政所 男性

菊川駅の北で開発が進んでいるが、駅の南と北を結ぶ 2 階建ての駅舎か何か考えていますか。今後、南北を結ぶアクセスをどう考えていますか。

○市長から回答

橋上駅についてかと思いますが、これまでも多くの皆さんからご意見をいただいていることをごぞいます。平成 27 年度に、計画を立てるための予算化をいたしまして、今、調査を進めております。この調査の内容につきましては、駅の北側の開発をどの地域までにするか、あるいはその投資効果がどの程度で生まれるか、そういった総合的なことについて、現在、調査費をつけて取り組んでいるところですので、近い将来には、構想ができあがりまして、それをまた、市民の皆さんや議会の皆さんと協議をしながら、これからの駅の北側の開発について考えていきたいと思っています。その時に、橋上駅についても避けてとおれないことですので、このことを含めながら進めて行きたいと思っています。

○建設経済部長から説明

市長から、計画の概要について説明がありましたが、私から詳細についてご説明申し上げます。昨年から、駅北構想という事業を進めてまいりましたが、昨年は駅北地区をどんな整備ができるかということで、コンサルタントとともに、市内の関係する部課長の中で、構想案を 4 点作成しております。それを元に、今年度は、その案のうち 1 点に絞るため、さらに案を詰めているところがあります。そういった中で一番重要なものがなんなのか、市民の皆様のニーズを把握するためのアンケート調査を行い、現在集計をしているところです。市民の皆さんが先ほど言われたとおり、橋上駅が必要かどうか。駅北を開発する場合には、どんなまちづくりが有効か。こんなところをアンケートで取りまして、集計をしています。このアンケートの集計と、もう少し具体的な案がまと

まったところで、公表し、意見を伺いたい、できれば、駅北口の設置に市民の皆様のご同意がいただければといった考えで進めております。

●高田 男性

第1次総合計画の策定委員を10年前にもやらせていただいたこともありまして、もう10年経ったなど、そんな思いでございます。それで、主婦がしあわせに暮らせるまち中部ブロック第1位ということですが、これが旦那がしあわせに暮らせるまち2位くらいになれば、もっといいかなとそんな風に思います。

3点ほどあったのですが、1点だけということなので、1点に絞って質問させていただきます。基本目標4の3番の「消防力を高めるまちづくり」で、自主防であったり消防団であったり、消防署や消防本部が努力されていることは承知しておりますが、広域消防というのは、今後間違いなく必要になってくると思います。消防措置法が改正されて、国や県も圏域を大きくしている。静岡県も当初は3つに分けて広域化を進めると言っていました。その後については、それぞれの自治体の意向もあって、現在では5つだということ、現在、中東遠地区では、掛川と菊川と御前崎ということなのですが、駅北の方に11階建ての高層のマンションといった高層物ができてくる。設備力も求められてくるわけですが、そういったことも含めまして、消防の広域化について市長にお伺いしたいと思います。

○消防長から回答

消防の広域化ということでございますが、現在、検討を進めているところでございます。やはり、広域化というのは1市だけでは、なかなか実現をするものではございませんので、慎重な検討が必要ということで進めております。

そういった中で、消防指令センターというものが現在は設置がされておりまして、その中ではある程度の応援協定という形で運用は現在も進められているところでございます。広域化のひとつの段階としまして、広域調約というものを進めたらどうだというのが、国の方針でございます。そちらの方も含めまして検討をしていきたいという考えでございます。

圏域につきましては、菊川市は中東遠圏域での広域化の検討ということで、事務局を設置しており、検討を進めているところであります。結論としては、申し上げられるものがございませんので、その時期が来たら、そういった進め方もしていくということで、お答えとさせていただきます。

●地区自治会副会長

行財政改革をやられていると思いますが、正規の職員と非常勤の職員の比率を教えてくださいたいと思います。

○総務部長からの回答

正規の職員は、28年4月1日現在で、317人になります。臨時・非常勤の職員につきましては、それぞれ短期的に1カ月とか何週間とかの単位で勤務していただいている方もいれば、常務として来ている方もいて、さまざまな雇用形態がある中で、臨時職員等で100人という状況です。

●地区自治会会長

色々市役所へ何うと、何をお願いしてもお金がない、予算がない、そんな話があるなとどこででており、今も市の財政はきついのだろうという予想はしています。その財務状況というのは、各年度の収支については多分赤字じゃないかなという気がします。その将来像とか計画をやっていくなかで、その財政というところ、確かに効率を上げて出を減らして、入りを増やせばいいんだけども、でも、重要な物はやらなきゃいけない。増やすというところは、何かお考えなのでしょうか。ふるさと納税については、菊川市では実際どれくらいあるのかなと思ひまして、素朴な疑問を持ちました。

○市長から回答

税金というのは高くすることができませんので、増やすのは非常に難しいです。去年ふるさと納税は、3000万円くらいでした。今年は、今10ヶ月目で、5000万円くらい、たぶん今年は1億以上のふるさと納税額。ですから、去年よりもかなり多くふるさと納税が入ると思います。これが、一番の大きな収入。あと、これはわずかですが、ネーミングライツとって、道路とかグラウンドに名前を民間の企業に使ってもらい、年間の名前料をもらっているというのがあります。指定管理制度では、小菊荘などがそうですが、本来は市の職員がやっていたのを、今は民間でやっていただいておりますので、そういったところで、収入ではありませんが、支出を少なくしています。それから、もうひとつは、税収を滞納のないように適正な税をもらう。こういったことが市としては基本中の基本ですが、そういったことを行っています。あとは、財政の担当の部長がおりますので、もう少し詳しく財政状況をお話させていただきます。

○財政部長からの説明

最初の市長の説明の中で、行財政改革を進める中で、基礎的財政収支を黒字化に取り組んでいるという説明があったかと思ひます。よく国が、国と地方の基礎的財政収支を黒字化する、今は2020年を目指すというおひますが、正式な国で定めている地方の基礎的財政収支、いわゆるプライマリーバランスですが、その求め方とはちょっと違ひた、菊川市方式の基礎的財政収支の黒字化というものを、菊川市ではずっと目標のひとつとしてきました。企業会計と違ひ、私どもの公会計は、単式簿記でいわゆる収入と支出があるだけです。1年間必

要なもの、仕事をして、1年経ったところで、収入と支出の等がひけている、いわゆる支出が賄えられたことになれば、それでいいというのが、公会計、単式簿記の会計です。でも、実はその裏に、負債がいっぱい増えている。あるいは貯めていた貯金がなくなっているということになると、表面上は帳尻が合っている、実は財政状況はすごく悪いんじゃないか、ということがあります。そういう意味で、菊川市方式の基礎的財政収支というのは、非常に単純でして、借金の残高と、貯金の残高を併せ持って、前年度から減っているのか増えているのかというのを目安にしています。つまり、借金は年々減らしていく、貯金は年々増やしていくというのがベストなのですが、なかなかうまくいかなくて、上げ下げがあります。先ほども市長の説明の中にありましたが、合併以来11年が経ちまして、借金の総額を24億円減額いたしました。その裏で貯金が減っているんじゃないかと思われると思いますが、貯金については、1億6千万円ほどアップしております。ですので、財政状況そのものは、非常に健全な財政の状況に向かっていっているとご理解いただいてもいいと思います。ただ、年々歳出が増えています。特に最近、扶助費といまして、色々な福祉のお金ですとか、医療ですとか、保健ですとか、子育て支援ですとか、そうした経費が非常に増えてまいりますので、確かに何にでも十分にお金が回せるかというところ、中々そうはいかないものですから、そこは総合計画を元に、毎年の計画を作りながら、予算の配分をしていきたいと思っております。ですので、左団扇という状況ではありませんが、財政状況そのものは、合併時より健全化に向かっていっているとご理解をいただいても、結構だと思っております。

●森 男性

市長に質問というか要望ですが、色々努力をしていただきまして、お蔭様で内田地区にも立派な消防の蔵置所が完成をいたしました。ところが、この前自治会の会合等に消防団の方が見えまして、団員の数が非常に足りないと、非常に危機感を持っているということで、自治会の方にもひとつよろしくご足労をお願いしたいということで、名簿もいただきました。私は森ですけれども、6人ほど対象者がありましたものですから、ちょっと伺ったのですが、なかなかいい返事もいただけません。先ほどの市長さんのお話の中で、菊川市内に事業所が100社ほどあろうというような話を伺いましたものですから、役所としても努力はしていると思っておりますけれども、ぜひ市長さんが事業所の方に出向いて、その辺のご理解をお願いしていただければ、一般の職員が行くよりは市長自らが行ってお願いをしていただいても、なるべく団員を増やしていただいても、防災力のアップをひとつよろしくをお願いしたいと思っております。

○市長から回答

消防団の確保は、今非常に大変でありまして、消防整備計画を作りまして、皆さんにご理解をいただき、来年の4月には新しい組織体系になろうとしているところです。とは言っても、消防団員の確保というのは非常に難しく、先般も菊川市も自営や農業が7割、8割だったのが、今は被雇用者といって勤めの人9割以上いるんです。だから、20名消防団員がいると、18名の人がお勤めということですね。ですから、それをもう少し地元の皆さんに、消防団員になってもらいたいと、地元の企業を皆さんが回ってお願いをしているんですが、今、鈴木さんのお話がありました、私が回るのも、別に脅かしに行くわけでもなく、お願いに行くわけですから、ぜひ一度ですね、仕組みが変わりましたら、そんなことも話題提供で行きたいと思います。では、今日は消防長もおりますから、現状の話しをさせます。

○消防長から説明

ただいま市長から話がありましたとおり、菊川市の被雇用率、サラリーマンの消防団員は非常に多くて、今年度は、92%という数字がでております。この数字は、全国的に見ても県内を見ても高い数字で、企業の皆さんにも理解と協力をお願いしていくということは、大切であって、工夫をしていかななくてはならないなと思っております。今年度は、来年の入団者、対象者を募集にかけまして、企業に通知もしくは直接というような、市長がというところまで考えてはいませんでしたが、アプローチをかけていく必要があるかなと検討はしている最中でございます。

それから、消防団の再編につきまして、先日の静岡新聞にも掲載をされまして、ご覧になった方もいるかと思いますが、非常に皆さんにもご心配をおかけしているのではないかと思っております。いよいよ来年の4月を目指して動き出しているところでございますので、これから、それぞれの地区に説明に向くような形で、ご理解をいただきたいと思います。この再編につきましては、消防団員が減少している、そういう中で、消防団員を確保することが大きなひとつの目的であります。消防団員は言うまでもなく、地域の防災の要、地域に根ざした活動をする組織でありますので、地域の皆さんの協力は不可欠です。そういう中で、消防団員が確保できる、これは、1年2年ではすぐに達成できる、来年すぐ成果がでるとは考えられませんが、時間をかけてでも体制を作れるような1歩になればという思いで、行う再編でございますので、ご理解をお願いします。

●高田 永田氏

菊川と上小笠川の間におおぞら幼保園がございます。平成26年に実はあそこは水に浸かりまして、大変な思いをしたわけです。地元の人たちもずいぶん心

配してそこに行ったんですが、そちらにいらっしゃる方で現場をこの中でという方はいらっしゃいますか。そういう程度なんですよね。先日、議員の方が集まりましたとき、同じ質問をしまして、議員としてどう思いますかと質問をしたら、何かまた予算をつけて調査をしますって話でした。ただ、相手が子どもですからね、あそこまで水がいかなくてもどんなことが起こるか分からないんですよ。それで、まあ今年も予算をつけているっていう話ですけども、実際に時系列でどんな調査をしていて、どんな経過になって、いつになったらできるかというのをお答えいただければと思います。

○教育文化部長から説明

おおぞら幼保園のことにつきましては、平成 26 年の台風の時には色々地域の皆さんにご心配をお掛けし、大変申し訳ないと思っております。その時の現場でございますが、当然担当者が、現場を見ておりまして、写真も残っておりますし、やはりその時どのくらい浸水したかというデータも取らせていただいております。またその後、雨の機会があれば、担当者が出向いて現場を見たりしております。また、先日もこの地域だと五丁目辺りで結構雨が降って浸水したときも、私も現場を見ております。そういうことをさせていただいております。

それで、時系列で少し説明をさせていただきますと、平成 26 年 10 月に台風がありまして、そのときにはすぐにマニュアルといいますか、緊急時にどういったことをするかというのをおおぞら幼保園として持っております。例えば雨がこれだけ降ってきたら園の体制はどうするかとか、そういうものをまずその時に見直させていただいております。昨年 27 年度になりますが、あの地域が浸水した原因はなんだろうと調査費を付けさせていただいて、研究させていただきました。実は、幸いと申しますかありがたいことに、27 年は大きな雨が降っておりませんので、十分なデータが取れておりませんので、今年も引き続きデータの収集に努めています。ただ、この 2 年間、色々過去データとかを調べて研究してまいりますと、原因としましては、おおぞら周辺だけではないのですが、菊川の本線の水位が上がってしまうと、あそこに樋管（ひかん）がございますが、そこから水が出なくなってしまう。この水が逆流してしまうということがありまして、どうもそれが原因ではないかなということで、今たどり着いております。先日、大雨が 100 ミリ近く降った、私も現場を見に行かせていただきましたのはお話をさせていただきましたけど、ああいった短時間でたくさん降る雨については、本線の水位が上がっておりませんので、水が流れやすいものですから、そういうときにはおおぞらの周辺については問題ないと思っておりますが、例えばこの前の台風のように、前日から雨が降り続いて、雨が降ると、どうしても樋管から水が出にくくなって、排水不良が起きてしまうということが、やはりあるのではないかなと考えています。対策としてどういうこと

を考えているかですが、やはり本線の問題でありますので、当然、菊川の河川改修について市長を筆頭をお願いをするということがまずひとつ大きな方法としてまずあります。次に我々としてどのようなことができるかといいますと、川の水位がだいぶ影響するということが分かってきましたので、川の水位を見ながら対策を立てていくというマニュアルを作らせていただいております。もうひとつの進め方としましては、緊急時に動線を確保する、緊急時におおぞら幼稚園と外部との行き来ができるようにすることはできないかということで、菊川の右岸側の堤防を少し整備して、あそこをもう少し通りやすくするために、今、国土交通省と話をさせていただいております。そういったことで、今、原因の追究に努めているとともに、緊急時に備えてなんとか動線を確保できないかということで取り組んでいるという状況です。

●政所 男性

私も市役所へ度々行くことがあるんですが、役所の仕事の内容はちょっと分からないですが、役所の人の方がパートとかそういうのとかもいいですが、一般（企業）より人数が多すぎるんじゃないかと思うのです。おおぞら幼稚園も大勢人がいるんですが、僕らも役所へ行って年金とか建設課だとか、そういうところへ行っても、最後は県庁へ行ってくれとか、内容が全然分からない勉強不足の人も大勢いるので、人員をもっと減らすことができるのかできないのか、そのへんを聞きたいと思います。

○総務部長から説明

職員につきまして、平成17年に351人いたものを、スリム化ということでこれまで削減を図ってまいりまして、先ほど申しましたとおり、平成28年4月1日現在で、317人という状況にあります。削減を図った中では、業務の委託化もしておりますし、業務によっては臨時、非常勤化することで、正規職員を削減してきているという状況にあります。臨時、非常勤が多すぎるということではありますが、市としては必要な業務量ということで配置しておりますので、適正な配置をしていると考えておりますけれども、引き続き削減には努力をしたいと考えております。

○教育文化部長から説明

おおぞら幼稚園に人がたくさんいるというお話だったので、少し事情を説明させていただきます。保育園では、0歳から5歳までのお子さんを預かっております。当然、子どもさんが小さくなれば小さくなるほど、国の基準で保育士さんの人数が決まっており、1歳や2歳だったら、6人に1人保育士さんを付けなくちゃいけないということになっています。今は早い時間からお母さん方が働くものですから、0歳の場合は、3人に1人の保育士さんを付けなさいと

ということになっています。それで、保育園の場合はご存知のように、基本は 11 時間で、それ以上に延長して、お母さんの仕事の都合で長く預かることもあり、基本的には朝の 7 時から夜の 7 時までやっていますんで、例えば我々一般の職員だと 8 時間の勤務ですので、11 時間だとそれにプラスアルファの職員が必要になってきます。職員もいますし、人によっては朝晩のパートで来てくれる方、結局全部が 8 時間の職員を雇うわけにもいかないものですから、普通の役所よりも多い人数がどうしても必要になってしまいます。特に保育園の特殊性を考えると、保育士さんがたくさんいないと保育がしっかりできない、というきまりがあるものですから、皆さんからしてみれば、何であんなに大勢の職員がいるのかというのがあるかもしれませんが、そういった事情もあるということをご理解いただければありがたいと思います。

(閉会 : 20 : 35)